

令和5年度版『ひろがる言葉 小学国語 六上』年間指導計画・評価計画

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。
 △知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと ☆他教科との関連

〔第5学年及び第6学年〕目標（「学びに向かう力、人間性等」の単元目標）

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
4	—	六年生で学ぶこと							
4	5 (話す聞く2)	言葉で伝え合おう	◇□互いの発言を聞いて受け止め合う関係をつくり、わかりやすく話したり、声に出して読んだりすることを楽しみ、国語学習への意欲をも	—					
4	2 (話す聞く2)	自分に質問してみよう	◇自分のことを客観的に捉えて話す。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒◎思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	1・2	○クラスみんなに聞いてみたい質問を出し合い、考えを交流するという学習の見通しをもつ。 1. みんなへの質問をカードに書く。 ・教科書の例を参考にしながら、質問を考える。 2. カードを引いて、質問を決める。 3. 質問にどう答えるか、考える。 ・自分で具体的な質問を考えて答えを書き出す。 4. グループで発表する。 5. 感想を伝え合う。	○質問は「初めて○○ができたときのこと」のような過去の思い出を尋ねるものと、「将来やりたいこと」「行ってみたい場所」のような未来のイメージを尋ねるものと、「なってみてほしいお話のキャラクター」のようなもし可能であったらというファンタジーな内容などから考えるようにする。聞かれたら答えてみたいと思えるような質問がふさわしいことを確認する。 ○答えを考える手がかりとして「なぜ?」「例えば?」「詳しく言うと?」「つまりどういうこと?」等の言葉を提示して、自問自答するようにする。 ○質問の答えを述べる際には、具体的なエピソードを盛り込めるようにする。「なぜかという」という接続詞を用いて、具体的なエピソードにつなげるようにしたい。	◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア) 【態度】積極的に自分のことを客観的に捉え、今までの学習を生かして質問について考えようとしている。		カード／質問／お話／発表
4	1	風景 純銀もざいく	□繰り返しの響きや意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒◎知技(1)ケ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	3	1. 『風景 純銀もざいく』を音読する。 (1) 1連・2連・3連で、見えたり、聞こえたりしたことを考える。 (2) 音読して気づいたことや気になったことをあげ、交流する。	○連ごとに繰り返し音読することで、どのような風景が浮かんでくるか、言葉で表せるようにする。「どのような色が見えてきたかな」「このなのはな畑はどれくらい広いのかな」「どのような音が聞こえてきたかな」「どのような匂いがしてきたかな」 ○遠方から聞こえる「かすかなむぎぶえ」、上空から聞こえる「ひばりのおしゃべり」、そのさらに上に見える「やめるひるのつき」という各連の8行めについて、どのような違いがあるのか気づけるようにする。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【知技】文章を音読したり朗読したりしている。(〔知識及び技能〕(1)ケ) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで言葉の意味を考え、繰り返しの響きや意味に気をつけて音読しようとしている。		音読／詩

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
4	2	あの坂をのぼれば	<p>□言葉の意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒◎知技(1)カ</p> <p>△文章を音読したり朗読したりすること。⇒知技(1)ケ</p> <p>□登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。⇒思判表C(1)イ</p> <p>□人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)カ</p> <p>□詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ</p>	4 5	<p>○学習の見通しをもつ</p> <p>確かめよう 1. 全文を音読し、言葉の意味を考えたり、確認したりする。</p> <p>考えよう・深めよう 2. 登場人物の心情がわかる場所を見つけ、心の動きを想像しながら声に出して読む。 (1) 登場人物の心情がわかる場所を見つける。 (2) 登場人物の心の動きを想像しながら声に出して読む。</p> <p>広げよう 3. すてきだと思える情景について、感想を話し合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>○前後の文から予想したり、辞書を使って調べたりする方法で言葉の意味を考えたり、確認したりするようにする。一つ一つの言葉を正しく理解することは、物語の全体像を具体的に想像することにつながる。</p> <p>○「あの坂をのぼれば、海が見える。」が繰り返されていることを確認し、登場人物のどのような心の動きが想像できるか、話の展開から考えられるようにする。</p> <p>○登場人物と似た経験がある子どもがいた場合には、そのときの経験を話させて、具体的に想像できるようにしてもよい。</p> <p>○4上で情景描写について取り扱っている。情景描写とは、景色や場面の様子が詳しく書かれている表現や、登場人物の気持ちを重ねて書かれている表現であることを再度確認する。</p>	<p>◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ）</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ）</p> <p>【態度】進んで言葉の意味を考え、学習の見通しをもって音読しようとしている。</p>		文／言葉／漢字／物語／登場人物／情景／作者
4	3 (書く3)	図に表して考えよう	<p>■目的や意図に応じて、考えや意見を図に書き出して、関係づけたり比較したりすることができる。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p>	1 2 3	<p>○教科書を読んで、考えを広げたり、まとめたりする際には、いろいろな図があることを知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 実際に考える図を使ってみる。（随筆や意見文を書く際に使う。）</p> <p>2. 意見をまとめるノート作りを、学期に15分程度の1モジュールずつ確認し、交流する。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>○同じ図でも、発想を広げる方法、分類したり比べたりする方法と2種類あることに気づかせる。</p> <p>○p.18上の図では、日常生活の中で感じたり考えたりしてきた疑問や課題を書き出して関係づけたりしながら、課題や課題意識を明確にしていることを確かめたい。</p> <p>○p.18下の図では、あるテーマについて長所と短所の2つの観点で分類整理していることを確かめたい。</p> <p>○実際に使って、効果を実感させる。</p> <p>○ノートの工夫は年間を通じて確認していきたい。</p>	<p>◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）</p> <p>【態度】粘り強く伝えたいことを明確にしようとし、学習の見通しをもって考えや意見を図に書いてまとめようとしている。</p>		課題／図／文章／意見／資料／情報／インターネット／比べる／共通点／相違点／見出し／理由／賛成／反対

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
4～5	11 (書く6)	一 筆者のものの見方や感じ方などにふれ、随筆に親しもう	△■自分に重ねながら随筆を読み、それを参考に、自分のものの見方や考え方を深め、経験したことなどを表現を工夫して書く。						
4	3 (書く1)	春はあけぼの	<p>△『枕草子』の文章にふれ、リズムや響きを味わいながら音読し、『枕草子』ふうの文章を書く。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ</p> <p>△親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。⇒◎知技(3)ア</p> <p>△古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。⇒知技(3)イ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒◎思判表C(1)カ</p> <p>■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p> <p>□詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆総合的な学習の時間・道徳：古典の響きに親しみを持ち、昔と現代の違いや共通点について興味をもって調べたり、関心を高めたりする。</p>	1	<p>○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。</p> <p>1. p. 22 を読み、教材の概略をつかむ。</p> <p>2. 教師の範読に合わせて読み、リズム等をつかんで、原文を繰り返し音読する。</p> <p>3. 各「季節」の情景をイメージする。</p>	<p>○随筆を、自分の経験や考えと比べながら読み、自分が経験したことなどを書くという単元の見通しをもたせる。</p> <p>○文語の散文との初めての出会いである。まずは、教材の概略をつかませる。</p> <p>○句読点など、くぎり方に気をつけてゆっくりと読ませる。慣れてきたら、リズムをつけて音読させる。</p> <p>○大意や写真を参考に、情景をイメージする。四季について、自分たちの経験や感じていることを想起させると、よりイメージがふくらんでくるだろう。</p>	<p>◎【知技】親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ）</p> <p>【態度】進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって『枕草子』ふうの文章を書こうとしている。</p>		暗唱／文章／詩／様子／言葉
			<p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒◎思判表C(1)カ</p> <p>■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p> <p>□詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆総合的な学習の時間・道徳：古典の響きに親しみを持ち、昔と現代の違いや共通点について興味をもって調べたり、関心を高めたりする。</p>	2・3	<p>4. 好きな「季節」の文章を、大意を参照しながら、何度も音読する。</p> <p>5. 自分の感じる季節感を『枕草子』ふうに書いて、交流する。</p>	<p>○気に入った「季節」の文章を選び、なめらかに読めるように何度も繰り返し読むようにさせる。暗唱に取り組ませてもよい。</p> <p>○自分の経験をもとにして、季節感を強く感じた場面を、簡潔な表現で文章化させる。</p>			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5	3	薫風 「迷う」	<p>□筆者のものの見方や感じ方などに触れ、随筆に親しむ。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>□事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 ⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>□詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：随筆の読みをとおして、真理を大切にし、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくしようと考える。</p>	4	<p>○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。</p> <p>確かめよう 1. 二つの随筆を読んで、筆者が取り上げているものや、どのような思い出、事例をあげているのか確かめる。 (1) 「薫風」のもともとの意味を確かめ、それに対して筆者（黛さん）はどのようなものを「薫風」の例にあげているのか考える。 (2) それぞれの「薫風」に対する筆者（黛さん）の思い出を、ノートにまとめる。 (3) 「迷う」「迷わない」の事例や、事例に対する筆者（日高さん）の考えを表にまとめ、それぞれの事例や筆者の考えについて話し合う。</p>	<p>○前単元「春はあけぼの」で随筆について知り、実際に書くという見通しをもっている。見通しを再度確認する。</p> <p>○筆者（黛さん）が断っているように、本来の意味での「薫風」と、ここで筆者が取り上げようとしている「薫風」には違いがある。ここに、辞典と随筆との違いがあるともいえる。だからこそ、そこに筆者の思いや考えが表れる。</p> <p>○「筆者が感じた“薫風”はどんな匂い？」「その匂いにはどんな思い出がある？」などと問うとよい。</p> <p>○筆者はここで「二つの思い出」を語っている。これらの思い出が、本来の意味での「薫風」とどのように関わっているか、その関わりを考えることで、「また」に続く二つめの条件「筆者の『薫風』への思い」を読むことができる。キーワードは、「五月」「風」「かおり」である。</p>	<p>◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ）</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア）</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ）</p> <p>【態度】積極的に随筆の特徴について理解し、今までの学習を生かして、筆者のものの見方や感じ方などに触れ、随筆に親しもうとしている。</p>	随筆を読む	文／漢字／根拠／結果／随筆／事例／話し合う／筆者／メモする／視点／訳／様子／作者
				5	<p>考えよう 2. 二つの随筆を比べ、話し合う。 (1) 二つの随筆を比べ、①取り上げている具体例は何か（何を通して）。②個性的な表現はどこか。③筆者独自のものの見方・考え方は何か。について話し合う。 (2) 「薫風」に、黛さん独自の意味を加えたことで、どのような効果があったのか話し合う。 (3) 「迷う」ことに対して、日高さんがどのように考えているかについて話し合う。</p>	<p>○教科書下段は、筆者（日高さん）が取り上げている事例についての感想や、自分の経験と照らし合わせて考えている様子を例にしている。</p>			
				6	<p>深めよう 3. それぞれの随筆に対する感想をノートにメモして、紹介しあう。</p> <p>○学習をふり返る。</p>	<p>○「ここが大事」に、「随筆とは、筆者がある物事やできごとなどをとおして、自分のものの見方、感じ方、考え方を書いた文章」とある。どのように「通し」たのか、なぜ「通し」たのかなどがポイントである。黛さんは、自分の経験・体験（事実）を「通して」書いており、日高さんは、集めた事例を「通して」書いている。「なぜ」「どのように」に、書き手の個性も表れる。</p> <p>○「ここが大事」に書かれている読むときの視点は、随筆を書く時にも生かすことができるので、学習のふり返りの際に押さえるとよい。</p>			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5	5 (書く5)	随筆を書こう	<p>■心を動かされたできごとから書く事柄を決め、随筆を書く。</p> <p>△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒◎知技(1)イ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知・技能(1)カ</p> <p>△比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒◎知技(1)ク</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)エ</p> <p>■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ</p> <p>■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p> <p>☆総合的な学習の時間など：卒業文集を作成するときに活用できる。</p>	7・8	<p>○「学習の進め方」を読み、学習の見通しをもつ。</p> <p>決めよう・集めよう（重点） 1. 書く事柄を決める。 ・仮のテーマ「風」について、どのような経験があるか考える。</p> <p>組み立てよう（重点） 2. 体験や事例を書き出し、自分の考えをまとめる。</p>	<p>○児童例文を読み、児童の書く随筆のイメージをもたせる。</p> <p>○「風」で思い浮かぶ内容が決まったら、黛さん、目高さんの書き方を参考に、組み立てを考える。個人的な経験と、一般的な事柄を重ねてみる。いくつかの事例と、それに対する自分の考えを述べる。</p> <p>○教科書の参考文例は、個人的な経験に基づいているが、ここで気をつけたいことは、単に思い出だけを述べるのではなく、「自分の感想や考えを加える」ことである。</p> <p>○書きたいできごと（エピソード）と自分の考えがうまくつながるかどうかなを確認する。</p> <p>○構成や下書きをあまり丁寧にしすぎない。次活動の交流で、児童同士で気づくようにさせたい。</p> <p>○3～5人でグループを作り、できごとがわかりやすいかなどに注目して交流させる。その際、何について書こうとしたのか、そのために、どのような表現上の工夫をしたのかなどについて、発表する前に述べさせるようにする。書き手の意図と表現の関係を読み手がおさえたうえで、交流させることが大切である。</p> <p>○「よく書けているところ」「おもしろいところ」など、長所を中心に感想を伝え合うようにする。</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っていると同時に、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）</p> <p>◎【知技】比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ク）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ）</p> <p>【態度】積極的に随筆の特徴について理解し、学習課題に沿って心を動かされたできごとから書く事柄を決め、随筆を書こうとしている。</p>	随筆を書く	随筆／言葉／漢字／始め／話し合い／中／気持ち／事例／伝える／終わり
				9・10	<p>書こう・読み返そう 3・4. 読み返しながら書く。</p>	<p>○これまでに学んできた説明文や文学教材、表現の仕方なども思い出させたい。特に、子どもたちがこれまで表現の仕方について着目して学んできていることを、適宜振り返らせたい。</p>			
				11	<p>伝え合おう 5. 友達と読み合う。</p>	<p>○お互いのものの見方や感じ方、考え方を知り、感想を交流する。</p>			
					○学習を振り返る。				

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5	1	漢字の広場 ① 三字以上の熟語の構成	△三字以上の熟語の構成について理解を深め、由来に関心をもつ。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「少人数」「保健室」「身体測定」という熟語の意味を考える。 2. p.46の説明にそって、三字と四字の熟語の構成について知る。 3. 辞典を利用して、三字と四字の熟語を集め、その構成を考え、ノートにまとめ、発表し合う。 4. 切れ目に「/」を入れて、三文字以上の熟語の構成について話し合う。 5. 略語と、略す前の熟語とを比べる。	○三字以上の熟語の構成を理解するという学習課題を確かめ、漢字の使い方などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○五年生上巻『漢字の広場③ 熟語の構成』で学んだ二字熟語の構成法を再確認し、型に分けて、整理しておく。 ○それぞれの言葉の切れ目に「/」を入れて、構成を考えるようにする。 ○それぞれの言葉のつながりをもとに読み下し、熟語の意味を推測できるようにする。 ○熟語の文字が増えても、どれも二字熟語が基本単位となっていることをおさえる。 ○切れ目に「↓」「↑」「 」「＝」などを入れて、構成を考える。 ○それぞれのつながりをもとに読み下し、熟語の意味を推測できるようにする。 ○国語辞典や漢字辞典で、漢字や熟語を調べ、推測した意味と比較するとよい。 ○例示の「緑地化計画」をもとに、熟語が切れ目ごとに並んでいるというよりも、何段階かの階層をもって結びついていることをおさえる。 ○どの切れ目を明確に区切るか、音読するとよくわかる。それによって意味の上で中心となる語が浮かび上がってくる。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって熟語の由来に関心を持ち調べようとしている。		構成／熟語／漢字／話し合う／言葉
	1 (書く1)	漢字の広場 ① 五年生で学んだ漢字 ①	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	2	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 7. 5年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 8. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 ○学習したことを振り返る。	○p.48の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導することがら児童たち全体に示しやすくなる。 ○絵の中にある5年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと、言葉からわかる美術館の中の様子をできるだけたくさん発表できるようにはたらきかける。 ○描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ○描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ○読み手が理解しやすいように伝えたいこと、知らせたいことを明確にして書くようはたらきかける。 ○条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ○内容につながるある文を二つ以上書くようにすると、言葉を適切に使っているかどうかのわかりやすくなる。 ○互いの文のよいところを見付けて伝え合うことをとおして、それらを自分の表現に生かすようはたらきかける。 ○三字以上の熟語の構成について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。		漢字／言葉／様子

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5～6	5 (書く2)	二 筆者の考えを読み、説明の仕方の特徴をとらえよう	□■雪エネルギーの利用に対する筆者の主張と取り上げた事例の関係、残された課題などを検討しながら読み、筆者の説明の仕方や雪エネルギーの利用について考えをまとめる。						
	5 (書く2)	雪は新しいエネルギー	<p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p> <p>■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>□事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 ⇒思判表C(1)ア</p> <p>□目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 ⇒思判表C(1)ウ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>□説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア</p>	1	<p>○環境に関わる言葉を巡って話し合い、学習の見通しをもつ。</p> <p>確かめよう</p> <p>1. (1) 「地球温暖化」や「異常気象」「再生可能エネルギー」などの言葉について、知っていることを話し合う。</p> <p>(2) p.52⑥段落までを読んで、「雪はエネルギー」とはどのようなことか説明する。さらに、雪がエネルギーだとすると、どのように利用できるか、⑤段落の事例をヒントに話し合う。</p>	<p>○ニュースや天気予報などを思い出し、どんなことを聞いたことがあるか、知っていることは何か、説明し合い、話し合う。</p> <p>○ソーラーパネルや風力発電の風車を目にしたことがある児童もいると思われる。</p> <p>○p.52⑥段落までを読む前に、「雪はエネルギー」と言われたら、どのように感じるか、印象を話し合ってもよい。</p> <p>○p.52⑧段落までを読み、「雪はエネルギー」とはどのようなことか説明する。「雪はエネルギー」と最初に聞いたときの印象と⑦段落の内容を比べて説明するようにする。</p> <p>○p.52⑦段落の内容とp.51⑤段落「冷房に利用」を手がかりに考えるようにする。</p>	<p>◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア）</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ）</p> <p>【態度】積極的に雪エネルギーの利用に対する筆者の主張と取り上げた事例の関係、残された課題などを検討し、今までの学習を生かして、筆者の説明の仕方や雪エネルギーの利用について考えをまとめようとしている。</p>	考えを深めるために	文／漢字／図／言葉／課題／事実／筆者／段落／事例／文章／説明／結果／理由／外来語／分析／長所／短所
				2～4	<p>考えよう</p> <p>2. (1) 筆者があげている雪エネルギーの利用について、事例ごとにその利用の仕方や利点などをノートにまとめる。</p> <p>(2) 筆者が、雪をエネルギーとして利用することを主張しているのはなぜか、「化石燃料」「再生可能エネルギー」という言葉を使って説明する。</p> <p>(3) 雪エネルギーの利用によって、筆者は、雪国の暮らしにどのような変化の可能性を考えているか、また、どのような課題があると言っているか、説明する。</p>	<p>○本文に提示されている順に書き抜くのではなく、氷室と雪冷房の二つに整理してまとめるようにする。理解の助けになる図や表があるので、合わせて読み取るようにする。</p> <p>○p.50～51で、筆者がどんなことを問題だととらえているかをふまえて説明するようにする。</p> <p>○変化の可能性については、(2)で考えたことその他に、除雪にかかる労力や除雪で集めた雪の位置づけが変わることも考えるようにする。p.56⑩～⑫段落をもとに考えるようにする。</p> <p>○「課題」については、筆者は「～という課題」「今後の課題」とキーワードを示して述べている。</p>			
				5	<p>深めよう</p> <p>3. (1) 筆者が、雪エネルギーの利用可能性を述べる際に取り上げている事例の順序を検討し、そのようにする筆者の意図について話し合う。</p> <p>(2) 筆者が、雪エネルギーの利用可能性を述べる際、克服しなければならない課題にも触れていることの効果を考え、話し合う。</p>	<p>○まず、筆者が取り上げている事例、氷室と雪冷房を比べて気づいたことを話し合うようにする。氷室は先人の知恵を現代に生かしていた事例であり、雪冷房は現代の冷房施設に雪エネルギーを導入したものであることをおさえておく。</p> <p>○氷室を先に取り上げて詳しく述べたこと、雪冷房については、その規模を比較することを手がかりに考えるようにする。</p> <p>○雪エネルギーの利点だけ述べた場合と様々な課題を視野に入れて述べた場合とを比べて考えるようにする。「ここが大事」と合わせて扱う。</p> <p>○筆者が、p.58⑩段落で「雪エネルギーの今後の課題」に触れた後、⑫段落で「日本の国土の半分以上は雪国」と指摘して、文章を締めくくっていることの効果も考えさせるとよい。</p>			
					<p>広げよう</p> <p>4. (1) 「雪は新しいエネルギー」を読んで、筆者の考えや説明の仕方について、考えたことを文章にまとめる。</p> <p>(2) 書いた文章を友達と読み合い、感想を話し合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>○文章にまとめる活動に入る前に、この文章を読んだ感想を話し合い、それぞれがどんな観点から感想を持っているか、整理しておくことよい。</p> <p>○友達の書いた文章に話し合う際にも、どんな観点からどのように考えたか注意して読み、自分の考えと比べるようにする。</p>			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
6	2	主語と述語の対応をみる	<p>△主語と述語の対応を確認して、文のねじれに気づき、正しく直す。</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒ ◎知技(1)カ</p>	1	<p>○冒頭の会話文を通して，文を見直す際に主語と述語の対応を確認することが大事だということを知る。</p> <p>1. 教科書の例文を読み，どのように直せば主語と述語が対応するか理解する。</p>	<p>○主語と述語が対応していない文は言いたいことが正しく伝わらない文になることに気付かせる。</p> <p>○教科書の例文を児童に提示してどのように直せばいいか考えさせたうえで教科書の説明を読むようにする。</p> <p>○ねじれ文の直し方は1つに限られるものではないことに気付かせる。</p>	<p>◎【知技】文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ）</p> <p>【態度】積極的に主語と述語の対応について理解し，今までの学習を生かして，文のねじれに気づき，正しく直そうとしている。</p>		主語／述語／文／伝える／漢字／文章
				2	<p>2. ねじれ文を修正することで，主語と述語の対応について理解を深める。</p> <p>3. 文章を書くときに，主語と述語の対応をよく確認しているか振り返る。</p> <p>○学習したことを振り返る。</p>	<p>○ノートに直した文を書かせ，主語（のまとまり）と述語（のまとまり）に線を引かせて，主語と述語の対応を確認させる。</p> <p>○日頃の言語生活を振り返り，学習の成果を生かしていくことができるよう意識づける。</p>			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
6	10 (話す聞く6, 書く4)	三 立場を決めて、主張を明確にしよう	◇ ■ 立場や意見をはっきりさせて話し合ったり、パンフレットを作成して伝えたりする。						
6	6 (話す聞く6)	地域の防災について話し合おう	◇ 意見の違いを大事にしなが話し合い、考えを深める。 △ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ △ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 ⇒知技(1)キ ◇ 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒思判表A(1)ア ◇ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表A(1)エ ◇ 互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 ⇒◎思判表A(1)オ ◇ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ ☆ 特別活動・総合的な学習の時間など：問題意識や互いの立場・主張を明確にしなが、計画的に話し合う。	1 2 3 4 5 6	○ 単元名やリード文を読み、お互いの意見を尊重し合いなが話し合うことについて考え、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 立場を決め、くわしく調べる。 (1) 教科書を読み、パネルディスカッションの意図と進め方を知る。 (2) 自分たちで話し合うテーマを設定する。 組み立てよう 2. 資料をもとに主張を組み立てる。 (3) 自分たちが設定したテーマにそって準備をし、パネルディスカッションを行う。 * テーマに対する観点とグループのメンバーを決める。 * グループで情報を調べたり、整理したりして、自分たちの主張をまとめる。 話そう・聞こう（重点） 3. パネルディスカッションを行う。 * 司会者とパネリストを決め、フロアの役割を確認する。 (4) 2回め・3回めを行う。 伝え合おう 4. 感想を伝え合う。 ○ 学習を振り返る。	○ お互いの考えや意見の違いを尊重しなが話し合うことの重要性について理解させ、パネルディスカッションによる話し合いの方法を身につけるよう意識づける。 ○ パネルディスカッションによって、異なる立場からの意見を聞いたり、質問をし答えたりすることによって、論題について自分の考えを深めることができることを知らせる。 ○ 意見の優劣をつけるものではないので、パネリストの意見・討論やフロアからの質問・意見などをもとに、それぞれの立場に対する理解や論題についての考えを深めるようにする。 ○ 論題は、三～四ぐらいの異なる立場が設定できるものにする。 ○ 学年や学級で取り組んでいる総合的な学習や特別活動などから論題を選んでもよい。 ○ ここでのグループの準備は十分に行う。主張を支える根拠について、グループで討論させる。 ○ フロアからの意見や質問が議論の質を高めることになる。 ○ それぞれの役割について、確認する。 ○ 意見を述べるときは、自分の立場や根拠を明確にして話したり、資料を用いて効果的に話すことができるよう促す。 ○ 異なる立場の意見もきちんと理解するにはたらしきかける。 ○ 空き教室なども利用し、並行して複数行っていくこともできる。 ○ 役割を変えたり、論題を変えたりしてもよい。 ○ それぞれの役割や立場についての感想、自分の考えがどのように深まったかなどについて確かめる。 ○ 日常生活においても、パネルディスカッションによる話し合いが有効だと思われるときは行っていこうと思えるよう意識づける。	◎【知技】 思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思判表】 「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ） 【態度】 粘り強く意見の違いを大事にしなが話し合い、学習の見通しをもって考えを深めようとしている。	立場を決めて話し合う	立場／討論／パネラー／パネリスト／パネルディスカッション／フロア／主張／パンフレット／意見／質問／漢字／司会／資料／組み立て／話し合い／説明／要点／聞き手／共通点／相違点／順序

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
6	4 (書く4)	パンフレットで知らせよう	<p>■相手や目的に応じて内容や構成を考え、パンフレットを作る。</p> <p>△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆総合的な学習の時間など：事物を紹介する活動でも活用できる。</p>	1	<p>○教科書を読み、どのようにパンフレットを作るのかイメージし、学習の見通しをもつ。</p> <p>決めよう・集めよう 1. 違う立場の人どうしてグループになり、知らせたい内容を話し合う。</p>	<p>○パンフレットを集めさせ、読み比べて、パンフレットという表現方法の特徴を理解させる。 ○読んでもらう相手や目的を明確にする。その際、相手が大人なのか子どもなのか、どのようなことを中心に伝えるのかなど、具体的に考えさせる。</p> <p>○前時までのパネルディスカッションをふまえ、その中で感じた個々の課題を話し合う。パネルディスカッション時のグループとは別のグループメンバーと話し合うことで、さまざまな立場からの課題や意見を交流できる。</p> <p>○誰に何を伝えたいかを明確にすることで、パンフレットに載せる題材や分量も定まってくるだろう。</p>	<p>◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ）</p> <p>【態度】積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え、学習課題に沿ってパンフレットを作ろうとしている。</p>	パンフレットで知らせる	パンフレット／パネルディスカッション／課題／立場／情報／構成／アンケート／文章／見出し／文
				2	<p>組み立てよう（重点） 2. 書く分担を決め、構成を考える。</p>	<p>○目的や意図に応じて、さらに取材をさせてもよい。 ○構成については、p.73の構成例を参考にすのほか、地域で配布されているパンフレットや広報誌など、身近にあるパンフレットを用意して、参考にさせてもよい。</p> <p>○中学年で学ぶリーフレットや、5年で作ったポスターなど、相手や目的、伝えたい分量に合わせて、さまざまな伝え方があることを確認させたい。</p>			
				3・4	<p>書こう・読み返そう（重点） 3・4. パンフレットを作り、読み返す。</p>	<p>○伝えたいことに多くのスペースを割くようにする。その際、写真やイラストをどのくらい使うのか、見出しの文字の大きさはどうするか、なども含めて考えさせるようにする。</p> <p>○読み手にわかりやすくなるように工夫をする。写真やイラストを効果的に使うために、パンフレットの紙面展開の中で必要な事柄を文章で説明する部分と、写真やイラストで伝える部分の配分をどのようにするとよいか、具体的にイメージできるようにする。</p> <p>○読み手に、よりわかりやすく伝えるにはどうしたらよいか推敲をする。推敲する際の観点を提示する。「他の言葉でわかりやすくすることはできないか」「見やすくするためにできる工夫はあるか」など。</p> <p>○クラス内だけでなく、全校生徒や地域の方に読んでもらえるよう、展示してもよい。読んでもらって、喜んでもらうことが大切である。そのことが、また書きたいという気持ちにつながる。</p>			
					<p>伝え合おう 5. パンフレットを読み合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>				
6	1 (書く1)	雨	<p>△「雨」を扱った言語表現を集め、日本語の豊かさに気づく。</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ</p>	1	<p>1. 教科書の文章から「雨」を取り上げた言語表現を知り、その背景を考える。</p> <p>2. 「雨」に関するさまざまな言語表現を、辞典などで調べたり、これまで読んだ本の描写を思い出して確かめたりしながらノートに書く。</p>	<p>○「雨」を使用した言語表現の多様さに気づかせる。</p> <p>○どのような種類の辞典や参考書を見ればよいかを考えさせる。 ○これまで読んだ本で記憶に残っている雨の描写をいろいろ人と交流して集め確かめ合うようにさせる。雨を題材とした歌などの楽曲なども対象にしてよい。</p>	<p>◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いている。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ）</p> <p>【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）</p> <p>【態度】粘り強く「雨」を扱った言語表現を集め、学習の見通しをもって「言葉ノート」を作ろうとしている。</p>		言葉ノート／言葉／漢字／短歌／俳句／詩／ことわざ

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
7	2	世代による言葉のちがひ	<p>△世代による言葉遣いのちがひについて理解し、相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使うことができるようにする。</p> <p>△言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ</p> <p>◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 ⇒思判表A(1)オ</p> <p>◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ</p>	1	<p>○世代によって使用する言葉に違いがあることもあつたが、今はほとんど使われなくなったものがあることについて理解する。</p> <p>1. 言葉には、年上の世代の人たちには使われていたが、今はほとんど使われなくなったものがあることについて理解する。</p> <p>2. 言葉には、自分たちの世代にしか通用しないものもあるということを理解する。</p> <p>3. 言葉には、人が成長する過程で一時的に用いられるものもあるということを知る。</p>	<p>○教材冒頭の会話文を読み、世代による言葉の違いについて調べてみたいという意欲を持たせる。</p> <p>○世代による言葉の違いは、あくまでも相対的なものであり、年長だからといってすべての人が「ジーパン」・「いささか」を用いるわけではなく、若い世代の人でもこれらの言葉になじんでいることがある。あまり拘りすぎないよう配慮が必要。</p> <p>○p.78下段を読み、板書やワークシートを活用しながら教科書に挙げられたもの以外にも今はほとんど使われなくなった言葉があることに気付かせる。</p> <p>○p.79上段を読み、ここに挙がっている「なにげに」「ピミョー」「ほぼほぼ」という言葉を使ったことがあるかどうか内省させ、他にもこのような言葉がないかどうか探させる。</p> <p>○p.79下段を読み、幼児がよく使っている言葉にはどのようなものがあるか探させる。</p> <p>○世代による言葉の違いについて、家の人たちにインタビューしてくるよう指示を出す。</p>	<p>◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ）</p> <p>【思判表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ）</p> <p>【態度】積極的に世代による言葉遣いの違いについて理解し、学習課題に沿って相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使おうとしている。</p>		世代による言葉の違い／様子／場面
7	1	漢字の広場 ② 複数の意味をもつ漢字	<p>△複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味に関心をもつ。</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ</p>	1	<p>○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 「象」という漢字の意味を考える。</p> <p>2. p.80下段を読み、「象」という漢字には、もとの意味と、派生した意味をあわせもっていることを知る。</p> <p>3. 「布」「針」を使ったそれぞれの熟語がどのような意味で使われているかを話し合う。</p> <p>4. p.81下段の設定問に取り組み、傍線の漢字がそれぞれどのような意味で使われているかを考え、違いを話し合い、辞典で調べる。</p>	<p>○複数の意味をもつ漢字について理解するという学習課題を確かめ、漢字の使い方などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p> <p>○一つの漢字には、もともとの意味のほか、あとから意味が加わったり、変化したりするものがあることを「象」を例に知る。</p> <p>○具体的なものごとを表す具象語だけでなく、同じ漢字から抽象的な概念を表す抽象語も構成されていることに気づくことができるようにする。</p> <p>○「布」「針」を使った言葉を使い短文作りに取り組み、それぞれの言葉と漢字の意味を想起できるようにする。</p> <p>○辞書でそれぞれの言葉と漢字の意味を確認する。</p> <p>○声に出して文を読み、傍線の漢字のおおよその意味を推測し、それぞれの意味の違いを話し合うようにする。</p> <p>○漢字辞典を活用して調べる活動を取り入れ、漢字の意味と語句の意味との関連に興味をもてるようにしたい。</p>	<p>◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いている。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ）</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味を考えようとしている。</p>		複数の意味をもつ漢字／象形文字／漢字／言葉／文章／物語

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
	1 (書く1)	漢字の広場 ② 五年生で学んだ漢字 ②	<p>△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ</p> <p>■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	2	<p>5. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。</p> <p>6. 5年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。</p> <p>7. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。</p> <p>○学習したことを振り返る。</p>	<p>○漢字の使い方や表記などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p> <p>○p. 82の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導することが児童たち全体に示しやすくなる。</p> <p>○絵の中にある5年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。</p> <p>○絵に描かれたことと、言葉からわかる工場の中の様子をできるだけたくさん発表できるようにはたらきかける。</p> <p>○描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。</p> <p>○描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。</p> <p>○読み手が理解しやすいように伝えたいこと、知らせたいことを明確にして書くようはたらきかける。</p> <p>○内容につながりのある文を二つ以上書くようにすると、言葉を適切に使っているかどうかのわかりやすくなる。</p> <p>○互いの文のよいところを見付けて伝え合うことをとおして、それらを自分の表現に生かすようはたらきかける。</p> <p>○複数の意味をもつ漢字について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ）</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。</p>		漢字／言葉／様子／資料

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
7	7 (話す聞く2)	四 すぐれた表現の効果を 考えて、登場人物の心情を 読もう	□優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み、優れた表現についての感想を話し合う。						
7		川とノリオ	<p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒ 知技(1)カ</p> <p>△比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒ 知技(1)ク</p> <p>△文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒ 知技(1)ケ</p> <p>◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒ 思判表A(1)ア</p> <p>◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 ⇒ 思判表A(1)オ</p> <p>□登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒ 思判表C(1)イ</p> <p>□人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒ 思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒ 思判表C(1)◎オ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒ 思判表C(1)◎カ</p> <p>◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒ 思判表A(2)ア</p> <p>□詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒ 思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：物語の読みをとおして、生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重しようとする。</p>	<p>1</p> <p>○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。</p> <p>確かめよう</p> <p>1. 印象に残った場面を紹介し合う。</p> <p>2～4</p> <p>考えよう</p> <p>2. 出来事の確認や、登場人物の変容、表現の工夫や効果について考えたり話し合ったりする。</p> <p>(1) いつ、どのようなできごとが起こったのか表に整理する。川や川つぶちがノリオに対してどのような様子であったか考える。</p> <p>(2) 物語の中で、ノリオはどのように変容したのか。なぜ変容したのか話し合う。</p> <p>(3) 次のような表現を他にも探し、その効果について話し合う。</p> <p>「比喩」「色」「体言止め」「擬人法」「音や様子」「くり返し」</p> <p>5</p> <p>深めよう</p> <p>3. この物語における「川」とは何を表しているのか、全体の構成や、「川とノリオ」という題名をもとに考える。</p> <p>6・7</p> <p>広げよう</p> <p>4. 心に残った表現を見つけ、感想を話し合う。自分の感じたことが伝わるように朗読する。</p> <p>○学習のふり返り。</p>	<p>○優れた表現を味わいながら読み、心に残った表現について感想を話し合うという単元の見通しをもたせる。</p> <p>○どの場面が心に残ったかや、川とノリオの関係などを意識させたい。</p> <p>○時代背景や難語句については、適宜説明を加える。</p> <p>○「いつ」が分かる部分にサイドラインを引くことで、起こった出来事を見つけやすくなる。</p> <p>○擬人化された「川」とノリオとの関わりを捉える。「川つぶち」とあるのは、「川」そのものだけでなく、もう少し広い意味で捉えようとしている。</p> <p>○登場人物の変容については、これまでの押さえてきている。「初めは…。最後は…。そう変わった理由は…。」のような形を示し、考えられるようにする。また、ここでは、場面とともに移り変わるノリオの心情についても考えられるようにする。</p> <p>○工夫された表現を探し、効果についての話し合いでは、目的を共有し、話し合うための材料を集めて分類できるようにする。</p> <p>○教科書では、六つの表現を取り上げている。「ここが大事」に、「すぐれた表現が、読み手の想像を広げ、物語の世界を豊かにしてくれます。」とある。想像を広げること、物語の世界の豊かさを確かめたい。</p> <p>○その他にも、「倒置法」「対句」のような表現がみられる。</p> <p>○ p.104 の「言葉」の設問は、学習活動の中で適宜取り扱う。</p> <p>○ノリオにとって「川」はどのような存在なのか、これまでの学習を生かして考えるようにする。</p> <p>○ノリオや川がそれぞれ象徴している「もの・こと」について考えてもよい。</p> <p>○題名が「ノリオと川」ではなく、「川とノリオ」である理由についても考え、物語の全体像を想像できるようにする。</p> <p>○ 2. (3) で取り上げた表現の中から「心に残った表現」を選ぶ。</p> <p>○なぜ、それが「心に残った」のか、教科書に例示されている三つの「観点」を参考にノートにメモしておく。根拠を明確にすること。</p> <p>○メモをもとに自分の考えを発表し、それについて、友達と感想や考えを交流する。</p> <p>○同じ表現を選んでいても朗読の仕方は様々に表れる。自分の感じたことがどのようなことを明確にしておくことが大切である。</p> <p>○「音読が文章の内容や表現をよく理解し伝えることに重点があるのに対して、朗読は、児童一人一人が思ったり考えたりしたことを、表現性を高めて伝えることに重点がある。」(『学習指導要領・解説』より)ことに留意する。</p>	<p>◎【知技】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ク)</p> <p>◎【知技】文章を音読している。(〔知識及び技能〕(1)ケ)</p> <p>【思判表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ)</p> <p>【態度】進んで優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み、優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み、学習の見通しをもって優れた表現についての感想を話し合おうとしている。</p>	すぐれた表現を読む	文／漢字／物語／擬人法／体言止め／比喩／場面／移り変わり／様子／繰り返し／構成／題名／情景／心情／朗読／言葉／ことわざ／慣用語	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	1	詩を味わおう イナゴ	<p>□凝縮された言葉の美しさや豊かさを味わいながら、詩の世界を楽しむ。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>□登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	1	<p>1. 一連と二連の「イナゴ」と「ぼく」の様子をもとに、詩の世界をイメージする。</p> <p>2. 三連について考えたことを話し合う。</p>	<p>○一連、色彩豊かな秋のひとつときである。</p> <p>○二連、一転して、緊張しているイナゴのクローズアップである。</p> <p>○一連と二連で、僕の目に映るイナゴの姿にはどのような違いがあるか考える。</p> <p>○三連、強い生きもの（ぼく＝人間）と、よわい生きもの（イナゴ＝昆虫）の間の「イネのにおい」である。</p> <p>○「川のように流れるイネのにおい！」から、どのようなことを想像したか考える。</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ）</p> <p>【態度】積極的に言葉の広がりを感じ、学習課題に沿って詩の世界を楽しもうとしている。</p>		連／様子
9	1 (書く 1)	「知恵の言葉」を集めよう	<p>△昔から広く継承されてきた「知恵の言葉」を知ることによって、言語文化の奥深さに気がつくとともに、自らの体験をもとに新たな「知恵の言葉」を創作する。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	1	<p>1 暮らしの中に、ものの名前や物事の手順を唱え言葉で覚える工夫があることを知り、教材文を読んで集めたり調べたりする意欲をもつ。</p> <p>2 自分の知っている「知恵の言葉」や本で調べた覚え歌、ことわざなどを集めたり整理したりして友達と交流する。</p> <p>3 自分の得意技や知っているコツを伝えやすいように「知恵の言葉」にして紹介し合う。</p>	<p>○教師の知っている唱え言葉による暗記などの工夫を紹介し、家で教わったり自分で工夫したりした工夫を思い出したりさせる。</p> <p>○教材文での「知恵の言葉」のいろいろを唱えさせ、いろいろな「知恵」があることに気づかせるようにする。</p> <p>○「知恵の言葉」の唱えやすさが言葉のリズム等にあることに気づかせる。</p> <p>○本、インターネット、家の人の口癖など、いろいろな方面から集めるよう助言する。</p> <p>○交通標語なども「知恵の言葉」に入ることに気づかせ、自分の心覚えや下学年へのアドバイスなど唱えやすい言葉で作るようにさせる。</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ）</p> <p>◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）</p> <p>【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）</p> <p>【態度】進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって自分の「知恵の言葉」をつくらうとしている。</p>		教訓／ことわざ／言葉／日本語／漢字

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	5 (書く 5)	五 てんかいを考えて、表現を工夫して書こう	■写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作る。						
		物語を作ろう	<p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>△比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒知技(1)ク</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)エ</p> <p>■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ</p> <p>■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ</p>	1	<p>○「学習の進め方」を読み、学習の見直しをもつ。</p> <p>決めよう・集めよう</p> <p>1. 写真の中から登場人物を決め、人物設定をする。</p> <p>(1) 写真を見て想像を広げる。</p> <p>(2) 登場人物を選び、人物設定を「人物カード」に書く。</p>	<p>○物語を創作することを伝え、活動の具体的なイメージをもてるようにし、児童の意欲を高める。</p> <p>○まずは、教科書の写真を見て気づいたことや感じたことを自由に発言させる。断片的な気づきでもよいし、また、ストーリーを想像させるしかけ（例：写真両端のポストの近くにいる男女は待ち合わせをしているのではないかなど）に気づいた児童がいれば、そこから想像を広げるおもしろさを実感させることもできるだろう。</p> <p>○写真の中の人物の行動や服装、持ち物などに注目させ、どんな会話が生まれているかなどについて考えてもよい。</p> <p>○写真はデジタル教材で大きく提示するなどの工夫も効果的だろう。</p> <p>○選ぶ登場人物は一人でも複数人でもよい。</p> <p>○人物の行動や服装、持ち物などから、人物の性格や生涯についてイメージする。絵をかかせるイメージが具体的になる。</p>	<p>◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしていると同時に、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ）</p> <p>【態度】積極的に物語のつくりの特徴について理解し、学習課題に沿って写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作ろうとしている。</p>	物語を作る	物語／登場人物／漢字／中心人物／性格／構成／組み立て／話し合う／視点／結末／図／あらすじ／クライマックス／やま場／始まり／心情／気持ち／読み返す／様子／情景描写／たとえ／会話
				2	<p>組み立てよう（重点）</p> <p>2. 物語を組み立てる。</p> <p>(1) 物語の大まかな展開を考える。</p> <p>(2) グループで話し合い、読者の視点も加えて構成を考える。</p> <p>(3) あらすじを書く。</p>	<p>○一人で考えるのではなく、友達の意見を聞くことで、自分では考えつかなかったおもしろいアイデアが生まれることもある。積極的に交流させたい。</p> <p>○マッピングで発想をさらにふくらませてよい。</p> <p>○あらすじでは、自分が伝えたいことをやま場（クライマックス）にもっていくようにする。</p> <p>○「やま場」については既習事項（5年上巻『大造じいさんとがん』）だが、再度意味を確認するとよい。</p>			
				3・4	<p>書こう・読み返そう（重点）</p> <p>3・4. 物語を作り、読み返す。</p>	<p>○やま場を詳しく書くように指導する。会話文や心内語を入れると場面が生き生きする。</p> <p>○p.117「人物や場面の様子を効果的に表現するために」を参考に、これまでに学んだ文学作品を取り上げて、表現の工夫によって、作品にどんな効果が表れているかを確認する。</p> <p>○自分が伝えたいことがその言葉で読み手に伝わるかどうかを考えて、推敲を行わせる。</p>			
				5	<p>伝え合おう</p> <p>5. 友達と読み合い、感想を伝え合う。</p>	<p>○聞いてもらって、喜んでもらうことが大切である。また物語を作りたいという気持ちにさせる。</p>			
					○学習を振り返る。				
9	3 (話す聞く1)	会話を広げる	<p>△相手とのつながりをつくる言葉のはたらきを意識し、相手との言葉の掛け合いの工夫を考える。</p> <p>△言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア</p> <p>△原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表A(1)エ</p> <p>◇互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 ⇒◎思判表A(1)オ</p> <p>◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ</p>	1	<p>○相手とのつながりをつくる言葉のはたらきについて学習することを理解し、学習の見直しをもつ。</p> <p>1. 会話をするとききかけとなる話題を作ること意識し、相手のことを考えて言葉を選ぶことの大切さを考える。</p> <p>2. 言葉の内容だけでなく、言い方にも工夫が必要であることを考える。</p>	<p>◎言葉を選ぶことによって相手とよりよい関係を築こうとする初対面での場を意識させ、課題に取り組むという学習の見直しをもたせる。</p> <p>○相手をよく見て話すなど、相手に興味があるという態度をとったり、丁寧に優しく問うたりするなど、言葉以外のところからも印象を受けることを考えさせる。</p>	<p>◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア）</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ）</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ）</p> <p>【態度】積極的に相手とのつながりをつくる言葉の働きを意識し、学習課題に沿って相手との言葉の掛け合いの工夫を考えようとしている。</p>		アイスブレイク／会話／言葉／話題／電話／問
				2	<p>3. 電話で相手が見えない場合の円滑なコミュニケーションをとるにはどうすればいいのか考える。</p> <p>4. 同じ音である「うん。」でも込められる気持ちや言葉のはたらきが違うことを考える。</p>	<p>○声だけで、気持ちをきちんと伝えられるように考えさせる。</p> <p>○相手の問いかけに対する受容や受け入れる間は、相手を安心させることに気づかせる。</p>			
				3	<p>5. 相手が話すことを促すための工夫を考え、話し合う。</p> <p>6. 会話の中でコミュニケーションを上手にとるための、話すときと聞くときの工夫を考え話し合う。</p>	<p>○相手へ言葉を投げかけ、答えを期待することも話をつなげる工夫の一つであることを考えさせる。</p>			
					○学習したことを振り返る。				

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	1	漢字の広場 ③ 熟語の使い分け	△意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分ける。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 1. 「大事」と「重要」の使い方の違いを考え、それぞれの文には、どちらがふさわしいかを話し合う。 2. 「経験」と「体験」等の使い方の違いを考え、二つの熟語の使い分けを考えたり、国語辞典などを利用してそれぞれの意味と用例を調べたりして、確かめる。 3. よく似た熟語を使って短文を作り、それぞれの違いを比べる。	○熟語の使い分けについて理解するという学習課題を確かめ、漢字の使い方などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○「大事」と「重要」の二語の使い方の違いを実際に考え、熟語の使い分けに感心もてるようにすることをねらいとしている。 ○意味のよく似た熟語の使い分けについては、用例をとおして直感的に判断したり、感覚的に捉えられるようにすることを第一とする。 ○児童自身の体験や読書経験を生かし、できるだけたくさん用例を集め、使い分けを考えられるようにする。 ○辞典を利用し、比較する二語の意味の共通点と相違点を調べ、用例が重なる場合と、使い分けされる場合があることを理解できるようにする。 ○「事実」「現実」などのように、やや抽象的な概念を表す熟語については、それが表す具体的な中身を考えられるようにする。 ○作った短文を発表し合い、その熟語が短文の使用例として適切かどうか、みんなで確かめてもよい。 【例】「延期・延長」、「感動・感激」、「周囲・周辺」	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見直しをもって意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分けようとしている。		熟語／文／様子／漢字／事実
	1 (書く1)	漢字の広場 ③ 五年生で学んだ漢字 ③	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	2	4. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 5. 5年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 6. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	○p.124の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導することがらを児童たち全体に示しやすくなる。 ○絵の中にある5年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと、言葉からわかる場面の様子をできるだけたくさん発表できるようにはたらきかける。 ○描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ○描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ○内容につながるのある文を二つ以上書くようにすると、言葉を適切に使っているかどうかのわかりやすくなる。 ○条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ○表現を改めたり、書きまちがいを正したりして、書いた文を発表する。 ○互いの文のよいところを見付けて伝え合うことをとおして、それらを自分の表現に生かすようはたらきかける。 ○初めに書いた文と推敲した後の文を比べ、書き直してどこがよくなったかを互いに指摘し合うとよい。 ○熟語の使い分けについて正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。		漢字／言葉／様子